

白石正一郎日記と徳山藩士

中原雅夫

次のように、徳山の士人が白石家に入入りしている様子が知られる。

安政六年己未

八月廿七日 徳山藩本城清江村彦之進来訪九州行の由一

両日滞在廿九日出立

十一月 八日 徳山藩本城清江村彦之進九州より帰関止宿

文久二年壬戌

四月廿二日 徳山藩江村彦之進来訪止宿廿三日帰省

九月 六日 徳山より遠藤貞一來事情聞合也今夜止宿

十月十四日 徳山遠藤貞一より来書長井雅楽建白書並弁

駁書書状等来ル

十二月十九日 小田村君より馳走案内有之旨大庭申来四条

ポイント町にて馳走有之合客長府三吉原田徳

山江村大庭等也

六月廿九日

高杉山口より帰関来月四日御勅使山口へ御着との事承ル

今昼徳山藩四人来訪坂健之丞松岡修作山田

小太郎渡辺新三郎

文久四年甲子(元治元年)

八月 晦日

山口より被仰出赤根御政務役御聞せ被成赤間関辺軍政御用取計被仰付候山県小介赤根

間欠之節奇兵隊惣督被仰付候との事右ニ付

長太郎松岡修作予同道にて今夜より船にて

馬関へ行

九月 五日

飯田松岡長同道にてイ崎の日寄山より大坪武久赤田安岡迄地形順見して秋根通一宮へ

出夜ニ入帰宅

九月十三日

今日三田尻へ行馬也馬足ヲいため不進松岡飯田両人は駕也十五日着陣

元治二年きのと丑年(慶応元年)

五月 八日

隊中より松岡修作中村百太石田鼎大枝八郎来訪招魂場へ参り夕方各帰陣

文久三年みづのと亥

慶応二年ひのえ寅の年

六月廿一日 今日政事堂より高杉へ諸口勝利の報知有之

昼過大庭始報国隊より四人入来又福田良輔
了敵和尚遠藤某来ル徳山遠藤貞一より来翰
熊々小倉襲の事尋ニ来何の宅右工門と云も
の也夜ニ入山口より御使井上某高杉へ御書
持参る

七月 廿日 徳山人藤井孝太郎田中秋之丞遠藤貞一より

の書翰を持来り米二千石買入之事申来谷氏
より越荷へ申入相成候

慶応三年ひのとの卯年

四月 九日 徳山遠藤貞一來ル久家四郎同行久家ハ直様

かへる遠藤へ一酌先年来の談尚又當時の形
勢何角相咄申候山口にて村田蔵六山県九右
エ門など変死の噂申居候昼頃帰ル其あとニ
木谷修蔵来又一酌山口にてきぬ糸買取の事
木谷へ頼金十両相渡候

八月 六日 八ツ時遠藤祥介来訪暫して北条氏来り又佐

々木男也来訪一席にて一酌各帰省今昼徳山
藩飯田信来訪廉作と懇意ニ有之由焼香致度
由に付神靈前ニテ焼香サスル生姜漬一壺持
参備ル